

中国華北平原における冬小麦の農事暦変化に関する研究

Study on the changes in farming calendar of winter wheat in North China Plain

ゆ 江¹、*近藤 昭彦²Jiang Yu¹, *Akihiko Kondoh²

1.千葉大学理学研究科、2.千葉大学環境リモートセンシング研究センター

1.Graduate School of Science, Chiba University, 2.Center for Environmental Remote Sensing, Chiba University

地球温暖化が顕在化した現在、農事暦が大きく変化していることが予想された。華北平原は中国麦作の主要な食糧基地の一つである。そこで、本研究では衛星リモートセンシングを用いて長年の中国華北平原における主要農産物(冬小麦)の農事暦変動及び主要農産物(冬小麦)の作付面積の変化を定量化し、その変化要因を明らかにすることを目的とする。本研究ではPALデータとSPOT/VEGETATIONデータから得られる指数(NDVI)の季節変化から、1982年から2012年中国華北平原における冬小麦の作付面積の経年変化を求め、農事暦変化を推定した。河北省3月の平均気温の上昇、10月初の降水量の上昇。また、河北省秋の平均気温の影響で従来9月末播種した冬小麦は成長しすぎにより、冬季の休眠に入ると寒さに弱くなる、返青期に入ると旨く成長できないことが多くなった。これらは農事暦変化を関連していると考えられた。統計資料による冬小麦の作付面積変化と一致したが、本研究では冬小麦の空間分布の変化も同時に明らかにすることができた。

キーワード：華北平原、農事暦、冬小麦

Keywords: North China Plain, farming calendar, winter wheat